

ベトナム人留学生は日本社会をどのように捉えているか

Perception of Japanese Society by Vietnamese Students

松 田 勇 一 MATSUDA Yuichi
安 龍 洙 AN Yongsu
アントン・アンドレエフ ANDREEV Anton

概 要

本稿では、ベトナム人留学生が外国人と日本人がともに暮らす日本社会についてどのように捉えているのかを明らかにするために、ベトナム人留学生4名に対してPAC分析を用いて調査を行った。その結果、プラスのイメージとしては「自然や街が美しい」「給料が高い」「食べ物が美味しい」、マイナスのイメージとしては「物価が高い」、「冬が寒い」が複数の被調査者に見られた。また、日本の習慣の違い、日本人との交流の中で困っていること、難しいと感じていることとしては、「日本語と人間関係」、「単調な生活と寂しさ」が複数の被調査者に見られた。また、PAC分析法による先行研究で取り上げられたベトナム人の対日観が、本研究においても多く観察された。

キーワード：ベトナム人留学生、対日観、PAC分析法

1. はじめに

独立行政法人日本学生支援機構（2023）によると、日本の外国人留学生数は2019年に312,214人とこれまでの最大を記録したが、2019年に始まったコロナ禍により2020年は279,597人、2021年は242,444人、2022年は231,145と減少した。大学学部・短期大学・高等専門学校留学生数は2019年92,952人、2020年83,077人、2021年76,499人、2022年74,390人となり、ピーク時より2万人近く減少した。コロナ禍は一旦収束したが、留学生数が30万人に戻るまでにはまだ時間がかかるのではないだろうか。また、2022年度の外国人留学生の出身国は、中国が103,882人（44.9%）と最も多く、次いでベトナム37,405人（16.2%）、ネパール24,257人（10.5%）、韓国13,701人（5.9%）、インドネシア5,763人（2.5%）、台湾5,015人（2.2%）となっている。本稿では外国人留学生の中で2番目に多く、近年その数が増え続けているベトナム人留学生に焦点を当て、留学生が日本社会をどのように捉えているのかを探っていきたい。

外国人の対日観に関する研究は、外国人の対日観に関する研究は、安（2008a,2008b,2009,2010a,2010 b,2011,2012,2013）、安・宋（2013）、八若（2011）、八若・藤原（2010）、藤原（2009）、松田（2013,2014,2017）、松田・安（2018,2019,2021）等があ

るが、本稿ではベトナム人留学生を対象とした先行研究（安2011,松田2013）の結果と比較しながら考察を行う。なお、本研究は日本社会における「外国人」と「日本人」の異文化相互理解の実態とその特徴について認知的・情意的な観点から質的に検証し外国人と日本人の相互理解と相互交流の課題と問題点を検討する一連の研究の一部である。

2. 方法

本研究では、調査時の2023年7月～9月に、日本の大学に在籍しているベトナム留学生4名を対象に「日本社会についてどのように考えているか」についてPAC分析を行った。

調査は第1部と第2部に分けられるが、第1部は被調査者本人の同意を得てフェイスシートに被調査者の属性、外国滞在歴を記入させた。被調査者4名は全て20代女性であり、4年制学部在籍している。日本滞在歴は以下のとおりである。

表1：被調査者の日本滞在歴

被調査者	日本滞在歴
A	5年4カ月
B	2年8カ月
C	1年3カ月
D	1年3カ月

第1部においては、被調査者に以下の刺激語を与え、イメージ項目が10項目以上になるように記入させた。

【刺激文】 あなたは「外国人と日本人がともに暮らす日本社会」に対してどんなイメージを持っていますか？あなたが「外国人と日本人がともに暮らす日本社会」を考える時に重要と思われるものについて、〔イメージ表〕に10個以上記載してください。イメージは、単語（例：優しい、寒い）、または短い文（例：日本の冬は寒い）で書いてください。

その後、その連想イメージを重要と思われる順序に並べさせた。更にそれぞれのイメージ項目の組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのかを7段階尺度で評定させた。この尺度での回答をもとに、ウォード法でクラスター分析し、その結果に対する対象者自身の解釈を求めた。

第2部は口頭により、1) 各クラスター及びクラスター全体の解釈、2) 各イメージ項目に対して、そのイメージを抱くようになったきっかけや媒体を尋ねた。

調査は2023年7月～9月に第1著者が実施し、理解を妨げる被調査者の日本語の誤用

については修正を加え分析を行った。また、本稿では被調査者が特定されないように地名、国名、大学名、施設名などはすべて〇等にした。

3. 結果

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し、その結果に対する被調査者自身の解釈を示す。なお、括弧で示した部分は調査者の発言である。

3.1 被調査者Aの場合

図1は、被調査者Aのデンドログラムである。イメージの左に書かれた数字は重要度の順位を示し、+/-/0は各イメージについての被調査者の直感的評価（プラスイメージ=+、マイナスイメージ=-、どちらとも言えない=0）を示している。自由連想項目数は12で、Aはそれらの項目を4つのクラスターに分けた。



図1 被調査者Aのデンドログラム

クラスター1は「街路がきれい」「空気がきれい」「桜がとてもきれい」の3項目でクラスター名は「日本の雰囲気」とした。クラスター1については、「私の生活の周りにもゴミとかあまり見えないので、私の国と比べて日本はきれいだなあと感じています。日本の空は、すごくきれい、青くて。雨の日以外は空がきれい、汚くない。ベトナムのハノイの方とかはすごい埃がありますので、そういう青い空はあまり見えなかったの。桜は日本の有名なことなので、日本でしか見えない景色だと思いますの。 (きれいなイメージのグループということですか?) はい。」と解釈した。

クラスター2は「時間を守る」「優しい」の2項目でクラスター名は「日本人の特徴」とした。クラスター2については、「時間は、すぐに分かるのは電車の時間じゃないですか、1秒でも合っているの、日本人は時間を守るのかなあと。私の国と比べて、ベトナムのバスとか、時刻表ありますが、合ってないです。仕事の中でも日本人は時間を守っています。仕事の中でも日本人はいつも仕事の15分とか前に来て、それで時間はすごく大切だなと思います。ベトナムではギリギリで。優しいは日本人の性格、外国人に対して日

本人はとても優しいです。日本人か外国人かあまり区別されてるとか感じないので。店とかレストランとかでも同じく対応していますので、日本らしいかなあとと思います。(外国人だからと言って差別されたりしない?) はい。」と解釈した。

クラスター3は「果物と野菜の値段が高い」「輸入より日本製の商品の値段が高い」「課税が高い」の3項目でクラスター名は「日本での生活」とした。クラスター3については、「私の国と比べて日本の果物すごく高いんです。高くて種類もそんなに多くない。値段はすごく高いです。私、果物すごく好きなのに日本に来てから食べるのが少なくなりました。安いものもあるんですが、リンゴとかまだいいんですが、スイカとかメロンとか、イチゴとか〇〇県の名物ですよ?ですが、名物なのに高いです。野菜も高いです。野菜、だいたい150円以上ですよ?ですから、野菜とお肉の値段、だいたい同じだと感じていますので、野菜は高いです。ベトナムの野菜と果物はすごく安いです。ですが、お肉は高い。何倍かですね。(日本は肉が安いということ?)安くはないですが、野菜が高い。肉はまあまあです。日本製の商品は、なんかスーパーで見る、牛肉はアメリカ産なら安いですが、日本産だと絶対高いので。(これは食べ物ですね?)はい。課税は、今留学生なのであまり税金を払ってないんですが、先輩から聞いて、毎月毎月税金とか年金とか払わないとビザが出ないので。そういう税金とか年金とかすごく高いので。もし1か月20万なら4万くらいの税金払わないといけません、それは給料の5分の1ですよ?それは高いかなと思っています。(ここで言っているのは消費税ではない?)はい、所得税、年金、保険です。今は保険だけ払っているので大丈夫ですが、就職したら高いかなあとと思います。」と解釈した。

クラスター4は「冬は寒い」「ラーメンがしょっぱい」「お寿司と刺身がおいしい」の3項目でクラスター名は「寒さと味」とした。クラスター4については、「冬は本当に寒いんです。雪とかもあって。初めて日本に来た時、その日は14度位、4月だから。私、すごく厚いコートを着てたのに寒く感じたので。日本人は薄いコートを着ていたので、日本人はすごいなあと思いました。ベトナムなら7度で小学校は休みで、5度なら中学校と高校休みです。すごく寒いので。ベトナムでは寒くて湿気が高いからもっと寒く感じます。私がこう言うと日本人は笑っちゃうかもしれませんが本当のことです。寒さが違うから。温度は同じでも。だから14度で日本人が薄いコートで私はびっくりしました。ベトナムでは冬は雨とか多く降るので、もっと寒く感じますので。ベトナムの北の方、中国に近い方、0度で動物が死にましたよ、寒すぎて。ラーメンは、日本のしょうゆラーメンとか私に合わなくて、いつもしょっぱく感じますので、いつもいっぱいお酢を入れます。しょっぱすぎて食べられません。いつもお酢をいっぱい入れます。(味噌ラーメンも?)はい。蕎麦は大丈夫です。私はお寿司と刺身が大好きです。食べられない人もいますが、それは残念だなあと思っています。ベトナムで寿司は1回か2回しか食べませんでしたが、ベトナムで日本料理は結構人気です。ただ高いです。ベトナムでは生魚を食べ

たことはありません。ベトナムで明太子だけは食べたことがあります。生魚は日本に来てから食べました。最初から食べたかったんです。私は珍しいとか食べたことないものは食べたい人なので最初から怖くありませんでした。最初は、みんなに言われました、あー気持ち悪いよ、生もので。ですが、私は生魚と熱いご飯を食べました、それから全然大丈夫です。私はよくベトナム人じゃない、日本人っぽいと言われます。大葉とかも食べられます。納豆も食べられます。食べられないものはカレーだけです。カレーは匂いが我慢できないです。匂い強すぎです。納豆も大好きで、毎週納豆食べてます。」と解釈した。

全体のイメージについては、「一番強いのは、時間を守ることです。(電車とかバス?) はい。2番目は街がきれいです。汚い所も見つかるけど、すごく汚くないし全然大丈夫です、私の国に比べると。」と解釈した。

ベトナムと日本の習慣の違い、日本人との交流の中で困っていること、難しいと感じていることについて聞いたところ「仕事先では日本人と毎日毎日しゃべっていて仲良くなっています。学校では日本人の学生としゃべりますが、勉強のこと以外、何をしゃべっていいかわかりません。たまに日本人に聞いてもみんな答えてくれるんですが、そんなに興味を持っていないと感じてから、私もあまりしゃべらなくなりました。(映画とか歌とかの話はしませんか?) 私、見ないから(笑い)。私はほとんど中国のものをしていますので。中国語の検定試験受かりました。音楽も中国の。中国が大好きなので、自分で中国語を勉強しました。映画の内容とか私の興味に合っています。それと中国の小説が大好きです。ロマンティックな小説をすごく読んでいます。何冊も何冊も読んでいます。なんか恋愛の小説です。いつもすごく格好いい男の人ときれいな女の人と付き合っているとか。高校の時から今も読んでいます。(韓国ドラマは?) 見ません。韓国のこと好きじゃないので。ちっとも見ないんです。前はベトナムと韓国、喧嘩があったので。それから私は韓国のは絶対見ません。コロナの時、韓国人がベトナムに来て隔離されて、その時ベトナムのバインミーとかおいしくないとか評価されたのですごく嫌いになりました。政治は政治、中国人は中国人です。分けていますので。中国人の男の人の綺麗さが好きです。俳優がかっこいいから。(高校の時から中国が好きだったのにどうして日本に来たんですか?) よく聞かれます、なぜ日本に来ましたかって。はっきり答えられなかったんです。ベトナムで大学に行きたかったんですが、両親と合わないことがあって。最初は日本語だけ勉強して後は何やるかなあと思ったんですが、日本語勉強してから、やっぱり日本に来ないと練習とかできないので日本に来ました。(中国には?) その時は中国のこと好きだったんですが、ベトナムで中国留学は人気が無かったんです。みんな中国留学行かないでくださいとか言われてました。その時は日本留学良いよとか、まだ若いのではっきりな考えがなかったんです。日本に行ってくださいって言われました。(今なら中国に行きますか?) 今はベトナムに帰るだけです。他の国に行くとか考えてい

ません。外国での生活とか、もう結構です。旅行なら絶対行きたいです。(仕事とか?)
 仕事なら私は日本で就職できますよね。ですが、日本で就職したくないですから、やっぱりベトナムにいたいです。日本の生活、今はもう結構です。寂しくて。毎日、起きて、仕事して、帰って、寝て、また同じです。毎日毎日同じにしたくないので。去年、私ベトナム帰ったんですが、その前はそんなに強く思わなかったんですが、やっぱりベトナムに帰ってから。両親と1カ月過ごして、これからは家族と一緒に過ごしたいので帰ります。今は帰るための準備をしています。帰りたいから帰るということではなく準備しています。日本の生活は、すごく良いんです。私の気持ちだけ。私は一生に日本にいられないので、来年帰らなくても、あと3年、5年経ったら帰るでしょう。だから早く帰ってベトナムで安定したい。」と回答した。

被調査者が各イメージを抱くようになったきっかけについては、「街路がきれい」と「空気がきれい」は「毎日出かける時に感じた」、「桜がとてもきれい」は「4月に桜がきれいに咲いているから」、「時間を守る」は「電車の時間がいつも合っているから」、「優しい」は「日本人と話しているも感じる」、「果物と野菜の値段が高い」は「ベトナムと比べて」、「輸入より日本製の商品の値段が高い」は「スーパーに行って比べた」、「課税が高い」は「保険料を毎月払っているから」、「冬は寒い」は「5年間日本の冬を過ごしたから」、「ラーメンがしょっぱい」と「お寿司と刺身がおいしい」は「食べたことがあるから」と回答した。

3.2 被調査者Bの場合

図2は、被調査者Bのデンドログラムである。イメージの左に書かれた数字は重要度の順位を示し、+/-/0は各イメージについての被調査者の直感的評価（プラスイメージ=+、マイナスイメージ=-、どちらとも言えない=0）を示している。自由連想項目数は11で、Aはそれらの項目を3つのクラスターに分けた。

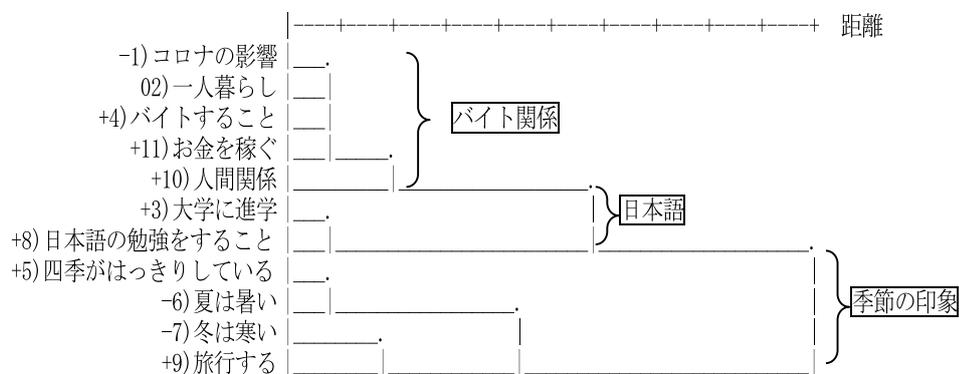


図2 被調査者Bのデンドログラム

クラスター1は「コロナの影響」「一人暮らし」「バイトすること」「お金を稼ぐ」「人間関係」の5項目でクラスター名は「バイト関係」とした。クラスター1については、「日本に来た時、日本のコロナの影響が悪くて、最初はバイトが見つからなかったです。見つかったのに、コロナウイルス感染予防のため、バイトの時間が減らされて、給料も減らされて、お金をあまり稼げなくなって、一人暮らしの私は家賃や生活費など、負担するので大変でした。バイト先でたくさんのバイト仲間や日本人の友達ができて、仲良しになって、友達にたくさん助けられました。」と解釈した。

クラスター2は「大学に進学」「日本語の勉強をすること」の2項目でクラスター名は「日本語」とした。クラスター2については、「大学の授業はたくさんの専門的な言葉を使うから、大学に入ったら、毎日、バイトが終わったら、家に帰って勉強して、次の日の授業の準備をするため、新しい言葉を覚えておきました。」と解釈した。

クラスター3は「四季がはっきりしている」「夏は暑い」「冬は寒い」「旅行する」の4項目でクラスター名は「季節の印象」とした。クラスター3については、「ベトナムは四季がはっきりしていないので、一年中いつも暑いと思います。冬や夏でも暑いです。いつでも海に行けます。日本の四季だったら、夏は海に行くか、冬はスキー旅行や温泉とかがありますから、とても印象に残っています。」と解釈した。

全体のイメージについては、「私は日本に来て初めてたくさんの体験をしました。初めてのバイト、初めての一人暮らし、自分でお金を稼ぐ、自分で家賃、生活費を支払う、初めて私の地方以外のベトナム人や日本人と友達になって、また私の年上の人と友達になって、日本で友達と旅行したことがとても印象に残っています。」と解釈した。

ベトナムと日本の習慣の違い、日本人との交流の中で困っていること、難しいと感じていることについて聞いたところ「朝食の時、日本人の場合は自分の家で作って食べたり、コンビニで買ったりするから、飲食店はいつも11時くらいになったら開店する気がします。ベトナム人なら、朝は外食するから6～7時に営業する店がたくさんあります。また、日本人と話す時、もし相手が新しい言葉で話したら、聞き取れなくなってしまいます。それに、言葉や文法が間違ったら、相手が話したい内容を理解できなくなってしまいます。」と回答した。

被調査者が各イメージを抱くようになったきっかけについては、「コロナの影響」「一人暮らし」「バイトすること」「お金を稼ぐ」「大学に進学」は全体のイメージでも回答した通り、日本に来て初めて経験したことであり、「人間関係」は「友達ができて助けられたから」、「日本語の勉強」は「日本語能力を生かせると感じて」、「四季がはっきりしている」は「いつも暑くなく寒くないから」、「夏は暑い」は「暑くて耐えられなくて」、「冬は寒い」は「寒くて耐えられなくて」、「旅行する」は「旅行して楽しかったから」と回答した。

3.3 被調査者Cの場合

図3は、被調査者Cのデンドログラムである。イメージの左に書かれた数字は重要度の順位を示し、+/-/0は各イメージについての被調査者の直感的評価（プラスイメージ=+、マイナスイメージ=-、どちらとも言えない=0）を示している。自由連想項目数は13で、Aはそれらの項目を4つのクラスターに分けた。

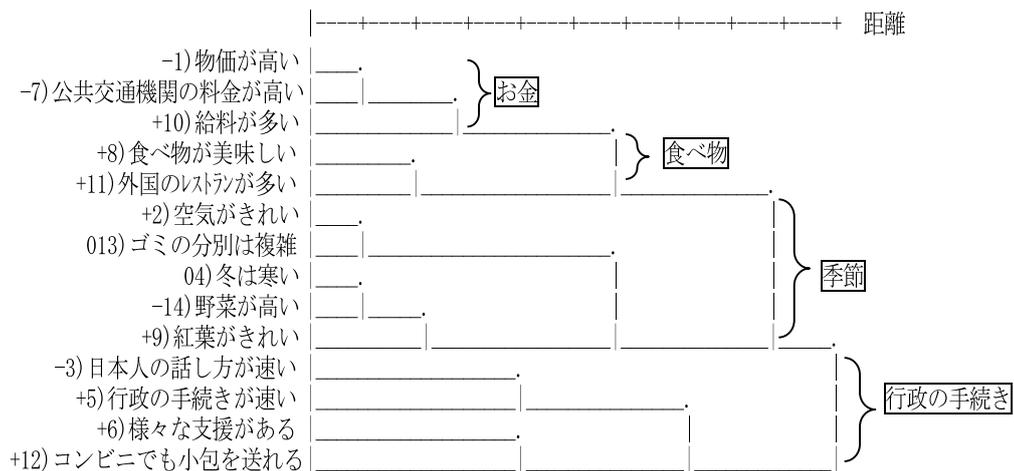


図3 被調査者Cのデンドログラム

クラスター1は「物価が高い」「公共交通機関の料金が安い」「給料が多い」の3項目でクラスター名は「お金」とした。クラスター1については、「日本では物価が高いということは誰でも知ってると思います。物価が高いということも給料も高いという感じで、ベトナムと比べたら、ベトナムでは何でも安い、物価も安い、給料も安いです。（物価は何が高いですか？）公共交通機関です。ベトナムではバスで行けば5000ドンたぶん50円くらい、日本では150円以上です。ベトナムで50円だったら10km以上です。野菜も高いです。日本では自然が豊かではないので野菜とか果物とかが高いです。給料は、初めて日本でアルバイトの時給を知ったら日本の給料が高いと思いました。ベトナムでは1時間は100円くらいです。ベトナムで時給100円で毎日働いてもアパートの家賃も払えないし、食費とかも払えないと思います。」と解釈した。

クラスター2は「食べ物が美味しい」「外国のレストランが多い」の2項目でクラスター名は「食べ物」とした。クラスター2については、「日本に来て、外国人が多いから、外国人のレストランが多いと思いました。本場の料理も初めて食べました。例えばタイの料理です。ベトナムではベトナム人の味に合わせて作っているから、日本でタイ人が作ってくれた本場の料理を食べました。〇〇市は、中国人、ベトナム人、タイ人が多いと思います。見た目で見分かります。日本の食べ物もおいしいと思います。ラーメンは種類がいろいろあるし、ちょっと特別な麺類だと思います。醤油ラーメン、担々麺が好きです。」

と解釈した。

クラスター3は「空気がきれい」「ゴミの分別が複雑」「冬は寒い」「野菜が高い」「紅葉がきれい」の5項目でクラスター名は「季節」とした。クラスター3については、「これは環境のグループです。ゴミの分別のおかげで、空気がきれいだし、空気がきれいになると共に自然もきれいになります。日本では季節がはっきり分かれているから、春も桜がきれい、夏は暑い、秋は紅葉がきれい、冬だったらとても寒いと知っていました。私がベトナムにいる時は、咳とかがとても出ていました。日本に来てそういうことがあまり無くなりました。ベトナムはバイクが多いので、空気もあまりきれいではない感じ。自分の気分も良くなりません。ごみの分別は、面倒くさいけど、環境のため、自分の将来のためだからやったらいいことです。冬は、ベトナムでは雨季と乾季があるから、日本で初めてそのような寒さを感じました。寒さは手も凍っていて何も感じない感じがしたから、私もエアコンをつけていなかったらから、寒さはとても感じました。野菜は、Aグループとちょっと関係があります。日本は季節が分かれているから、冬は野菜が少なくなって、野菜が高い理由になります。これは環境、季節のグループです。」と解釈した。

クラスター4は「日本人の話し方が速い」「行政の手続きが速い」「様々な支援がある」「コンビニでも小包が送れる」の4項目でクラスター名は「行政の手続き」とした。クラスター4については、「これは多分行政の手続きのことです。今は〇〇に住んでいますが、〇〇市役所に行くと市役所には来る人が少ないです。こちらは税金の方、こちらは外国人登録の方、住所変更とか分かれているから、ベトナムにくらべて手続きが速いです。話し方は、人によって違います。たまに日本人の話し方は、私が外国人だと分かっているからゆっくり話してくれますが、日本人と日本人の話だったら結構速いと思います。頑張っけて聞くけど内容が分からないことが多いです。支援は、例えば最近はガス代や電気代が高くなっていますが、〇〇市からの支援があつて、去年私も5万円くらいもらいました。〇〇大学でも一人暮らし支援とか、資格取得の支援とか、授業料の免除とか、いろいろ支援してもらって、ありがたいです。コンビニは、ベトナムのコンビニではこういうサービスがありません。コンビニは何でもできる感じです。水道代とか電気代とか支払えるし、コピー機も使えるし、郵便局の仕事なのにコンビニでも送れるんだ、みたいに感じてびっくりしました。」と解釈した。

全体のイメージについては、「日本は自然が豊かではないし、物価も高いですが、特に問題ではなく、充実した生活を送れる国だと思います。日本は自然も資源も豊かではない国ですが、日本人は人材が一番大切な資源だと習いました。今は、人によって違うと思います（笑）。人と人の人間関係は、おじいちゃんおばあちゃんと若者は違います。気配りとか思いやりがありません。」と解釈した。

ベトナムと日本の習慣の違い、日本人との交流の中で困っていること、難しいと感じていることについて聞いたところ「どこでもベトナムでも日本でも気が合わない人はど

うやっても合いません。仲良くできません。ベトナム人は話し方が違います。ベトナム人は何かあったらはっきり言います。日本人は人によって違うが建前があります。入学式の時、日本人は温厚な性格だから話しかけないと話してくれない、友達ができないと先生に言われました。ベトナム語と日本語、言いたいことが表せられません。話を聞いてくれる日本人が少ないです。私の日本語の発音も聞きにくいから、頑張って聞いてくれる人が少ないです。日本での生活、寂しいです。日本での生活は、勉強、アルバイト、家に帰る、同じ活動です。」と回答した。

被調査者が各イメージを抱くようになったきっかけについては、「物価が高い」は「スーパーでの商品を見た時」、「公共交通機関の料金が安い」は「ベトナムと比べて」、「給料が多い」は「家賃と生活費を払えるから」、「食べ物が美味しい」は「ラーメンが美味しいから」、「外国のレストランが多い」は「様々な国のレストランがよくあるから」、「空気がきれい」は「空気に埃が少ないから」、「ゴミの分別は複雑」は「ゴミはたくさんの種類に分かれているから」、「冬は寒い」は「気温がマイナスに下がるから」、「野菜が高い」は「スーパーで野菜が少なくて高いから」、「紅葉がきれい」は「秋の紅葉の並木がきれいだから」、「日本人の話し方が速い」は「日本人の話が聞き取れないことが多いから」、「行政の手続きが速い」は「手続きが速くできるから」、「様々な支援がある」は「学校や市役所からの支援が多いから」、「コンビニでも小包を送れる」は「ベトナムのコンビニではできないから」と回答した。

3.4 被調査者Dの場合

図4は、被調査者Dのデンドログラムである。イメージの左に書かれた数字は重要度の順位を示し、+/-/0は各イメージについての被調査者の直感的評価（プラスイメージ=+、マイナスイメージ=-、どちらとも言えない=0）を示している。自由連想項目数は14で、Aはそれらの項目を4つのクラスターに分けた。

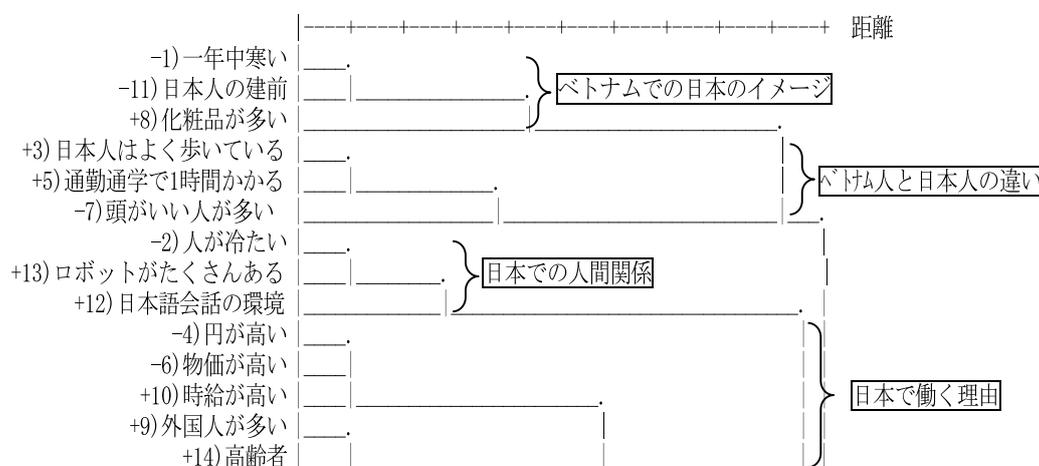


図4 被調査者Dのデンドログラム

クラスター1は「一年中寒い」「日本人の建前」「化粧品が多い」の3項目でクラスター名は「ベトナムでの日本のイメージ」とした。クラスター1については、「日本に来る前に、日本は一年中寒い、暑いことはないと思ったんですが。実は暑さが嫌いですから、日本に行きたくて遊びたいという気持ちがありました。日本は夏がないと思っていました。今はすごく暑いです。冬はとても寒いですが暑いより寒い方が良いです。日本人の建前は、日本人は考えていることをあまり話に出さない感じでした。ですが〇〇の人がちょっと違います。日本人とちょっと違います。ですからアルバイト先の人、良く会ってる人もあまり建前を言いません。直接言ってくれます。化粧品が多いことは、日本人は肌がきれいですが、日本に来て変わらないイメージで、売り場でとてもたくさん化粧品を売っています。化粧品が多くて区別できません。どれがいいとか、欲しいとか選べないです。」と解釈した。

クラスター2は「日本人はよく歩いている」「通勤通学で1時間かかる」「頭が良い人が多い」の3項目でクラスター名は「ベトナム人と日本人の違い」とした。クラスター2については、「日本の交通で電車が一番多い感じですが、うちから駅まで距離が長い人がたくさんいますよね。みんなよく歩いている感じですが、電車を降りても駅から会社や学校まで歩かないといけないから、道路でよく歩いているのを見ます。通勤通学で、うちの大学の学生もいます。〇〇県から毎日毎日大学まで1時間半くらいかかる学生もいます。実は映画で見たんですが、日本に来たらイメージが強くなりました。なんかとても時間がかかるって思います。(ベトナムでは?)通勤に時間がかかる人もいますが、あまりいません。30分が最大かと思います。オートバイで通勤するのであまり時間がかかりません。ベトナムでは他の県で仕事をする人はいないんです。ベトナムでは自転車もあまり乗ったことがないんです。ベトナムではバイクと電動自転車です。頭が良い人が多いは、日本はすとても経済とか発展していますね、だから、頭が良い人が多いんじゃないかと思いました。ですが日本に来たら、頭いい人もいるし、頭が悪い人もいます。」と解釈した。

クラスター3は「人が冷たい」「ロボットがたくさんある」「日本語会話の環境」の3項目でクラスター名は「日本での人間関係」とした。クラスター3については、「人が冷たいは、11番とちょっと同じです。ベトナムでイメージしたのは、日本人はあまり親と話さない、と感じました。ベトナムでビデオで見たんですが、困っている人がいても助けてあげない日本人がいっぱいいます。東京に何回も行ったんですが、東京の人は冷たい感じがするんですが、〇〇市の人、冷たくないです。冷たい人に会ったことがありません。ロボットは、これもベトナムでビデオで見ました。ロボットが多い所は入ったことがありませんから、まだ見ていません。スーパーとか、セルフ精算の自動的な機械をよく見るんです。日本語会話の環境は、私は日本語学習者ですから日本に行ったらその環境で会話が上達できるんじゃないですか、一番いいです。実は日本語学校であまり勉

強しなかったんですが、たくさんアルバイトして、たくさん日本人と話して、だんだん日本語上達できたんです。」と解釈した。

クラスター4は「円が高い」「物価が高い」「時給は高い」「外国人が多い」「高齢者」の5項目でクラスター名は「日本で働く理由」とした。クラスター4については、「今は円が安いですけど、日本に来る前に物価は高いんですが給料も高いと感じましたから、物価が高くても給料もたくさんもらえるじゃないですか、だから日本で働くと思えることができると思いました。物価が高いについては、日本に来てからイメージが変わりました。そんなに高くはないと思います。給料ももらえるからです。家賃が高いのは当たり前ですが、物価はベトナムと同じくらいです。生活費と買い物の料金、ベトナムと同じくらいです。時給はベトナムより高いです。日本の時給はベトナムの一日の給料と同じくらいです。外国人が多いことについては、ベトナムで海外に行く人の中で日本に行く人が一番多いです。ですが日本に来る前には、こんなに多いとは想像できませんでした。アルバイト入ってもベトナム人がベトナム語で教えてくれました。どこでもベトナム人が多くて、ですから日本語ができない人もアルバイトできる感じですね。私は日本語の知識があって会話ができるからホールで仕事をしているので日本語が上達できるんですが、日本語が全然できない人はバイトに入ってもベトナム人から教えてもらうから日本語の上達が難しいです。高齢者は、日本は高齢者が大きな問題じゃないですか。ですから外国人の働き手が欲しくなっています。高齢者と言えば、高齢者施設、老人ホームにいる人以外には、働ける人、年をとっても働かないといけない人にたくさん会いました。自分のアルバイト先にもいっぱいいました。」と解釈した。

全体のイメージについては、「外国人が多いです。それから日本語会話の環境です。ベトナムにいる時も想像できたんですが、こんなに外国人が多いとは思わなかった。（それについてどう思いますか？）日本に来る一番の目的は日本語の勉強じゃないですか、ですからベトナム人が多い所、アルバイトでも学校でも入ったらあまり日本語が勉強できないと思います。ベトナム人と外国人の考え方、日本人と違うと思います。ですから、ベトナム人がたくさんいる所に入ったら、とても悪いこと、問題があります。ベトナム人の中に入ると、たくさん難しいことが出てきます。悪口とか、人間ドラマがあります。就職する時、ベトナム人がいない所がいいです。今、アルバイトの飲食店は日本人ばかりだから日本語も勉強できます。日本人の考え方、勉強した方が良いです。怒っても優しくしてくれるから、そういう考え方、勉強したいです。コンビニはベトナム人いるんですが、大学の留学生は考え方もいいです。日本語もペラペラ話せるから勉強になります。」と解釈した。

ベトナムと日本の習慣の違い、日本人との交流の中で困っていること、難しいと感じていることについて聞いたところ「私は問題があったら直接言うんですが、日本人はみんな建前とは言えませんが、遠回しに言う人がいっぱいいるんですから、そういう人と

勉強とアルバイトで、仕事も困ってしまいます。日本人は土曜日によく遊びに行きますが、ベトナム人はいつでもストレス解消したい時遊びに行きます。日本人は自分に厳しいじゃないですか、だからストレス溜まりやすいです。週末にお店はいっぱいです。時間も厳しいです。ベトナム人は時間に厳しくないですが、快適な生活をしている感じですが、日本人は厳しすぎて。厳しくすることが必要なこともあるんですが、いつも厳しい必要はないと思います。」と回答した。

被調査者が各イメージを抱くようになったきっかけについては、「一年中寒い」は「映画を見て」、「日本人の建前」は「日本にいた人から聞いて」、「化粧品が多い」は「ビデオを見て」、「日本人はよく歩いている」「通勤通学で1時間かかる」「日本語会話の環境」「外国人が多い」は「実際に見て」、「頭がいい人が多い」は「映画で見て」、「人が冷たい」は「ビデオ、ニュースを見て」、「ロボットがたくさんある」「円が高い」「物価が高い」「時給が高い」「高齢者」は「ニュースで見て」と回答した。

4. 考察と今後の課題

4.1 被調査者に共通する対日観について

ここでは、被調査者4名のデンドログラムに基づく解釈を踏まえ、自由連想項目にみられる共通項について考察する。表2は被調査者が示した自由連想項目を直感的評価(プラスイメージ(+)、マイナスイメージ(-)、どちらとも言えない(0))ごとにまとめたものである。

表2：直感的評価ごとのイメージ

(+) 29項目 (A:6 項目 B:7項目 C:8項目 D:8 項目)	被調査者A<3)街路がきれい、4)空気がいい、9)桜がとてもきれい、1)時間を守る、2)優しい、10)お寿司と刺身がおいしい>、被調査者B<4)バイトすること、11)お金を稼ぐ、10)人間関係、3)大学に進学、8)日本語の勉強をすること、5)四季がはっきりしている、9)旅行する>、被調査者C<10)給料が多い、8)食べ物が美味しい、11)外国のレストランが多い、2)空気がきれい、9)紅葉がきれい、5)行政の手続きが速い、6)様々な支援がある、12)コンビニでも小包を送れる>、被調査者D<8)化粧品が多い、3)日本人はよく歩いている、5)通勤通学で1時間かかる、13)ロボットがたくさんある、12)日本語会話の環境、10)時給が高い、9)外国人が多い、14)高齢者>
(0) 5項目	被調査者A<6)輸入より日本製の商品の値段が高い、11)ラーメンがしょっぱい>、被調査者B<2)一人暮らし>、被調査者C<13)ゴミの分別は複雑、4)冬は寒い>
(-) 16項目 (A:3 項目 B:3項目 C:4項目 D:6 項目)	被調査者A<5)果物と野菜の値段が高い、7)課税が高い、8)冬は寒い>、被調査者B<1)コロナの影響、6)夏は暑い、7)冬は寒い>、被調査者C<1)物価が高い、7)公共交通機関の料金が安い、14)野菜が高い、3)日本人の話し方が速い>、被調査者D<1)一年中寒い、11)日本人の建前、7)頭がいい人が多い、2)人が冷たい、4)円が高い、6)物価が高い>

まず、プラスイメージで共通する項目の1点目は「自然や街の美しさ」である。Aは「街路がきれい」「桜がきれい」、Bは「四季がはっきりしている」、Cは「紅葉がきれい」を挙げており、日本での実生活の中で感じたことが反映されている。共通する項目の2点目は「日本の給料の高さ」である。Bは「お金を稼ぐ」、Cは「給料が多い」、Dは「時給が高い」を挙げており、留学生活においてはバイトが必須であることを示している。また、アルバイトの給料はベトナムでの時給より高く、プラスに評価している。共通する項目の3点目は「日本の食べ物の美味しさ」である。Aは「お寿司と刺身がおいしい」、Cは「食べ物が美味しい」を挙げており、日本の食べ物が口に合っていることを示している。ただし、Aはインタビューの中でも答えているが、Aの味覚は普通のベトナム人とは多少異なっており、4人の被調査者の中でも際立って日本食に合っていると思われる。

マイナスイメージで共通する項目の1点目は「価格の高さ」である。Aは「果物と野菜の値段が高い」、Cは「物価が高い」「公共交通機関の料金が高い」「野菜が高い」、Dは「物価が高い」を挙げており、ベトナムと比較すると日本の生鮮食品、特に野菜果物の値段が高いことを指摘している。このことは、ベトナム人留学生以外でも東南アジア出身の留学生からはよく聞かれることであり、日本の食糧事情の特徴を表していると言えよう。マイナスイメージで共通する2点目は「日本の寒さ」である。AとBは「冬は寒い」、Dは「一年中寒い」を挙げており、Cは「冬は寒い」を挙げているが、プラスマイナスどちらでもないイメージとしている。確かにベトナムと比較すると日本の冬は寒いと思われるが、日本のイメージとして強く印象付けられているということは意外な点であった。

また、日本での生活において困っている点としては、まず「日本語と人間関係」が挙げられる。Aは「学校では日本人の学生としゃべりますが、勉強のこと以外、何をしゃべっていいかわかりません。たまに日本人に聞いてもみんな答えてくれるんですが、そんなに興味を持っていないと感じてから、私もあまりしゃべらなくなりました。」と述べ、Bは「日本人と話す時、もし相手が新しい言葉で話したら、聞き取れなくなってしまいます。それに、言葉や文法が間違ったら、相手が話したい内容を理解できなくなってしまいます。」、Cは「ベトナム語と日本語、言いたいことが表せられません。話を聞いてくれる日本人が少ないです。私の日本語の発音も聞きにくいから、頑張って聞いてくれる人が少ないです。」、Dは「日本人はみんな建前とは言えませんが、遠回しに言う人がいっぱいいるんですから、そういう人と勉強とアルバイトで、仕事も困ってしまいます。」と述べている。Aは日本人学生と会話の内容が合わないこと、BとCは文法や発音などの日本語能力に関すること、Dは所謂「日本人の本音と建前」で、それぞれ日本人とのコミュニケーションにおいて困難を抱えている様子がうかがえる。その一方で、Bは「バイト先でたくさんのバイト仲間や日本人の友達ができて、仲良しになって、友達にたくさん

助けてもらいました。」のように、コロナ禍においても日本人との人間関係を前向きに捉えているベトナム人も存在する。次に、日本での生活に困っている点としては、「単調な生活と寂しさ」が挙げられる。Aは「日本の生活、今はもう結構です。寂しくて。毎日、起きて、仕事して、帰って、寝て、また同じです。」、Cは「日本での生活、寂しいです。日本での生活は、勉強、アルバイト、家に帰る、同じ活動です。」とそれぞれ述べており、日本での単調な生活をネガティブに捉えている様子がうかがえる。

4.2 先行研究と共通する対日観について

ここでは、ベトナム人の対日観を探った先行研究である安（2011）と松田（2013）の結果と比較し、共通点を中心に検討する。安（2011）、松田（2013）の共通点としては、「先進国である日本に対して好印象を持っている」、「年配者は親切で優しいが、若者は不親切である」、「日本人は本音を見せず消極的であるため、友達になりにくい」、「日本人は決められたルールや常識を守る」、「日本人は人間関係が希薄である」、の5点が挙げられる。

「年配者は親切で優しいが、若者は不親切である」については、の「人と人の人間関係は、おじいちゃんおばあちゃんと若者は違います。心配りとか思いやりがありません。」の全体の解釈からわかるように、先行研究（安2011, 松田2013）と一致する。

「日本人は本音を見せず消極的であるため、友達になりにくい」については、Aの「…勉強のこと以外、何をしゃべっていいかわかりません。たまに日本人に聞いてもみんな答えてくれるんですが、そんなに興味を持っていないと感じてから、私もあまりしゃべらなくなりました。」の全体の解釈と、Dのクラスター1の「…日本人の建前は、日本人は考えていることをあまり話に出さない感じでした…」のクラスター解釈から、先行研究（安2011, 松田2013）同様、日本人と仲良くなりにくいと感じている様子がうかがえる。

「日本人は決められたルールや常識を守る」については、Aの「時間を守る」のイメージ項目、Dの「(日本人は) 時間も厳しいです。…日本人は厳しすぎて。厳しくすることが必要なこともあるんですが、いつも厳しい必要はないと思います。」の全体の解釈などから、先行研究（安2011, 松田2013）同様、日本人はルールを守ると捉えている様子がうかがえる。また、Dの「…日本人は厳しすぎて…」は、松田（2013）と同様、日本人は「ルールを厳守しすぎ」と捉えていることがわかる。

「日本人は人間関係が希薄である」については、Aの「…勉強のこと以外、何をしゃべっていいかわかりません。たまに日本人に聞いてもみんな答えてくれるんですが、そんなに興味を持っていないと感じてから、私もあまりしゃべらなくなりました。」の全体の解釈、Dの「人が冷たい」のイメージ項目から、先行研究（安2011, 松田2013）同様、日本人は他人と積極的に関わろうとしないと感じている様子がうかがえる。

その他、安（2011）と松田（2013）における「先進国である日本に対して好印象を持つ

ている」という対日観は本調査では表れなかった。また、安（2011）の「日本人は欧米には好意的であるが、アジアには無関心である。」に関しては、松田（2013）と同様に今回の調査においても見られなかった。さらに、Aの「街路がきれい」「空気がきれい」「桜がとてもきれい」の3項目は全てプラスイメージであり、Cの「空気がきれい」「紅葉がきれい」などの街並みや自然の美しさに関するポジティブな評価は、先行研究（安2011, 松田2013）にはなかった新しい対日観として挙げられる。

4.3 まとめと今後の課題

本稿では、ベトナム人留学生が、外国人と日本人がともに暮らす日本社会についてどのように捉えているのかを考察した。その結果、プラスのイメージとしては「自然や街が美しい」「給料が高い」「食べ物が美味しい」、マイナスのイメージとしては「物価が高い」、「冬が寒い」が複数の被調査者に見られた。また、日本の習慣の違い、日本人との交流の中で困っていること、難しいと感じていることでは、「日本語と人間関係」、「単調な生活と寂しさ」が複数の被調査者に見られた。また、先行研究で取り上げられた多くの対日観が観察された一方で、「日本の街並みや自然の美しさに関するポジティブな評価」のような新たな対日観も表れた。

以上、本稿では日本在住のベトナム人留学生を対象にPAC分析による調査を実施し、彼ら・彼女らの対日観の内面世界の構造の一部を先行研究の結果と比較検討した。PAC分析は被験者が自由に自発的に項目を作り出し、それに基づいて自らが反応するため、被験者の自発性・自律性が最大限尊重され個々の被験者の内面世界について認知的・情意的観点から捉えることができる（内藤2002）。本研究によって、大学の講義において接しているだけでは推し量ることのできないベトナム人留学生の心象風景が垣間見えた。具体的には、4.1で述べた「日本語と人間関係」と「単調な生活と寂しさ」である。「日本語と人間関係」は、言語能力と話す内容とで種別されるが、言語能力については日本語教育に関わる人間としては見過ごせないものである。日本人学生との会話において、具体的にどのような点が問題となるのか、どのようなスキルが求められているのかを探り、教育現場にフィードバックしていきたい。また「単調な生活と寂しさ」については、留学生の学外の生活に介入することはできないが、学校行事の中に日本人との交流会を組み入れたり、外部団体主催のイベントを紹介する等の措置は可能である。本研究の結果を踏まえて、留学生を対象とするガイダンス等を通じて周知を図り、留学生生活が充実したものになるよう尽力していきたい。

付記

本研究の一部は、科学研究費補助金(課題番号: 17K02838,21HDD573,23KDD601)の助成を受けて行われた。

【参考文献】

- 安龍洙(2008a)「韓国人留学生の対日観の変容に関する一考察－個人別態度構造分析法(PAC分析法)を用いて－」『留学生交流・指導研究10』 pp.31-48
- 安龍洙(2008b)「韓国人の対日観に関する一考察－個人別態度構造分析法(PAC)を用いて－」、『ユーラシア研究 5(3)』 pp.107-125
- 安龍洙(2009)「外国人の対日観に関する事例研究-韓国人短期留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要7』 pp.1-13
- 安龍洙(2010a)「外国人の対日観に関する研究-日本滞在歴の長い韓国人の場合-」『ユーラシア研究7(4)』 pp.373-392
- 安龍洙(2010b)「外国人の対日観に関する研究-中国人非正規留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要8』 pp.1-17
- 安龍洙(2011)「外国人の対日観に関する研究-ベトナム人留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要9』 pp.1-18
- 安龍洙(2012)「外国人の対日観に関する研究-中国の少数民族出身者の場合-」『茨城大学留学生センター紀要10』 pp.1-14.
- 安龍洙(2013)「外国人の対日観に関する研究-中国人留学生の来日前後の対日観を比較して-」『茨城大学留学生センター紀要11』 pp.1-15.
- 安龍洙・宋有宰(2013)「外国人の対日観に関する研究：日本滞在歴の長い韓国人留学生の場合」『茨城大学留学生センター紀要11』 pp.81-96
- 内藤哲雄（2002）『PAC分析実施入門：「個」を科学する新技法への招待（改訂版）』ナカニシヤ出版
- 八若壽美子・藤原智栄美(2010)「Non-native 日本語教師の対日イメージ-個人別態度構造分析法(PAC分析)による事例研究-」『茨城大学留学生センター紀要 8』 pp.19-42
- 八若壽美子(2011)「日本人学生の外国・外国人イメージに関する事例研究-留学生との接触機会が多い学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要 9』 pp.33-46
- 藤原智栄美(2009)「台湾人日本語話者の対日観に関する一考察—個人別態度構造分析法(PAC分析)による事例研究—」『日本学と台湾学8』 pp.1-23、(台湾)静宜大学
- 松田勇一（2013）「外国人の対日観の変化に関する研究—ベトナム人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要11』 pp.97-111
- 松田勇一（2014）「外国人の対日観の変化に関する研究—ウクライナ人日本留学経験者の場合—」『茨城大学留学生センター紀要12』 pp.55-73
- 松田勇一（2017）「外国人の対日観の変化に関する研究—台湾人日本永住者の場合—」『茨城大学留学生センター紀要15』 pp.41-60
- 松田勇一・安龍洙(2018)「日本社会における中国人交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究1』 pp.69-83

松田勇一・安龍洙(2019)「中国出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか日本社会における中国人交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究2』 pp.73-85

松田勇一・安龍洙(2021)「インドネシア出身留学生は日本でのアルバイトを通して日本をどう捉えているか」『茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究 4』 pp.155-167

独立行政法人日本学生支援機構（2023）『2022（令和4）年度学国人留学生在籍状況調査結果』 <https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2022.html>（2024年3月1日閲覧）